

## 「国語教育研究 I」の授業の検討

国語教育講座 中西 淳

### 1. 講義の概要

本講義は、国語教育の問題点を踏まえた上で授業を構想することのできる力を養成するところにその特徴がある。その目標及び具体的な到達目標は以下の通りである。

<目標>

○国語教育の主要論文・実践や教科書を取り上げながら、国語教育のあり方について考究することができる。

<具体的な到達目標>

○自らの問題意識に即しながら国語科教育に関する主要論文を探し出すことができる。

○論文を批判的視点を持つて的確に読むことができる。

○自らの国語教育観を深めることができる。

これらは、教育学部 DP の以下の二点に該当する。

○自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。(関心・意欲)

○教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

### 2. 授業の展開

授業の展開は以下の通りである。

- ① 国語科教育に関する学びの振り返り  
—カリキュラムにおける位置づけ—
- ② 国語科教育の現状と目標  
—新学習指導要領の検討(中学校)—
- ③ 国語科教育の現状と目標  
—問いを持つことの意味—
- ④ 国語科における教材研究のあり方  
—俳句教材の内容の検討—
- ⑤ 国語科における教材研究のあり方  
—読み深めの検討—
- ⑥ 読書指導のあり方  
—生活と結びつけて—
- ⑦ 書くことの学習指導  
—評価の観点—

⑧ 書くことの学習指導

—評語の書き方—

⑨ 書くことの学習指導

—縦と横の視点—

⑩ 聞くことの学習指導

—聞くという行為を考える—

⑪ 聞くことの学習指導

—読み合いによる深まり—

⑫ 聞くことの学習指導

—問題設定の仕方—

⑬ まとめ

—主体的な学びについて—

なお、上記がそのまま一コマに対応しているわけではない。

### 3. 講義の工夫点と留意点

本講義は、これまでと同様に基本的に学習者の問題意識に即してその内容を決定していった。少人数の授業においては、その展開の有効性が明らかになったからである。今回においても、国語教育において何が問題であるのそれを問い、それをもとに、「考えてみたいこと」を考えてさせていった。その結果、「古典教育における文法指導」「受験の国語からの脱出」「作文教育における添削や批評のあり方」「聞くことの学習指導のあり方」「国語学力とは何か」「読書指導のあり方」「メタ認知力はどうのようにして身につくのか」「道徳と国語との違い」「言語感覚の育成のあり方」等に関する問題が出された。それを受けて、上記2のような授業展開を採用した。

さらに、「成長する教師」を念頭に、特に、批判的視点の形成、協議力と読解力の充実を図った。

### 4. 授業外学習について

授業外学習として、課題を出し、それに考えてくるよう指示を出した。課題の内容は、3年次後期の国語科教育法4の専門的な授業学習を念頭に置いてのものとした。

## 5. 授業のアンケート結果

授業後に授業方法（受講生の問題意識を承けて授業を構想し展開するやり方）に関するアンケート（名前は無記入）を行った。以下、受講生のその記述をいくつか挙げる（下線＝筆者）。

○「国語科教育の問題について自分が考えた問題と同じであったり、自分とは異なる視点の問題もあって、知りたいという学生の興味を高めることのできた講義であったと思う。また、改めて考えるとなぜその指導が必要なのか、今まで受けてきた授業はどうだったのかを考察することでこれから工夫していくべき点について考えることができた。まだまだ知識不足ということも実感できたので、より知識を吸収できればと思う。」

○「私はこの授業手法が研究の授業としては合っていると思います。学生の中から出た問題意識を授業の中で取り上げ、深めていくという型式によって、自分の取り上げた問題についてはもちろん、他者の取り上げた問題について考える時にも、より深く国語科の問題について考え、問題意識を身に付けていく姿勢に繋がっていくのではないかと感じました。」

○「自分の持つ問題意識を授業で他者と考えられたところがよかった。自分が持っていない問題意識について新しい発見があった。この授業を受けていなければ考えることのなかった問いや新しい価値観に触れられた。」

○「私たちの疑問から授業で取り扱うことを定めていくのは効果的で、読む指導（読書）、各指導（日記・作文）、話す・聞く指導を良い具合に網羅できたと思う。適宜、個人ごとに先生が質問していたことで疑問や足りていない力を明確にすることができたと感じる。」

○「学生自身の問いを授業で取り上げ、それをもとにディスカッションするのは自分は今までやったことのない授業だったが、他の人の問いを自分自身の問いとして落とし込み考えを深めることができたので、非常に今回は効果的であったと感じる」

○「今回のような授業形態について私は自身音の視野を広げることができよかったと思う。自身が問題意識を持っていなかった領域に大使邸の問題意識について改めて認識することができたからだ。」

○「今回の授業手法についてメリットとデメリットがあると思いました。メリットに関しては深く考えることができることです。学年が3回

生ということもあり、ある程度ピンポイントで問題が指摘されていて深く掘り下げることができました。デメリットに関しては扱われるテーマが少なくなるということです。もう少し多くのテーマについて取り上げていただくといいと思いました。」

○「授業のはじめに疑問に思うことや日々考えていることを集めて、それをもとに授業を展開する手法は良いと思う。問いを求められたときに頭に浮かばなかった問いを多く授業で取り上げていたが授業の都度、問題に対して新たな問いを見いだしたり答えを深めることができた。」

○「自分たちが疑問を持ったことをベースに、そのことに関する話をしてもらったので、自分のためになったという感じがして良かったし、他の人がどんなことを疑問に思っているのかを知ることができて勉強になった。ただ、自分たちが提示したもの以外にも国語を教えていく上で考えておかなければならないこと、もっと重要なことがあったのではないかとすると、少し不安を感じる。」

○「授業というと先生が方針を決め、その流れに沿った内容で進められるため、正直関心のない内容がこれまでの授業の中にあった。しかし、この授業では学生側の疑問を基点として内容が編成されており皆がどのような疑問を持ち、どのように考えているのかということがわかるため、素直に面白いといえる授業であった。最初、疑問が何かという考えに至らず、困惑する可能性もあるが、このような授業の展開はよいものだと思う。」

○「私が最初に課題を出せと言われた段階では正直何も浮かんでおらず適当に書いてしまったのですが、最終的には様々な課題が見つけたので、根本的な授業の手法についてはよいと思いました。」

## 6. まとめ

アンケートを見る限り、問題意識に即して授業内容を構成していくという展開に対する評価は高いといえよう。また、「成長する教師」に必要なとされる自問自答の力の形成を見て取ることができる。これまで同様の結果を確認することができた。

授業レポートの内容も充実したものであり、国語教育のあり方に関する考究的態度を見て取れることができた。授業の工夫の効果はあったように思われる。

